



豊浦八幡神社本殿



(住所) 大和郡山市豊浦町
 (祭神) 菅田別命 三筒男命
 (文化財) 本殿は県指定文化財
 (交通) 近鉄郡山駅から徒歩約30分

(拝観) 境内自由
 (駐車場) なし
 (電話) なし

豊浦八幡神社 (大和郡山市)

大和郡山市豊浦町は、近鉄橿原線とJR大和路線に挟まれた田園地帯にある約20軒の農村集落で、八幡神社は集落の北側に鎮座しています。創建については明らかではありませんが、室町時代後期と伝わります。

県指定文化財の本殿は、二つの社殿を並べ、



一つの屋根に収めた特異な造りです。桁行2・67

二つの社殿を一つ屋根に

、梁行0・90と小規模ながら、屋根は本瓦葺きで、細部は装飾模様や極彩色に彩られています。拜殿前の鳥居には、かつては赤膚焼の瓦が載せられていました。

1945年ごろまで、例祭の宵宮には篝火を

に至る街道が通る集落の

たいて、「宮相撲」と呼ばれる子どもたちの相撲が行われていました。秋の例祭では、当屋(世話役)の家の屋根にお飯屋を載せ、祭神の移し回しをする神事が行われてきました。今も簡略化されて続けられています。

社社の北側は、郡山城

の会会員 戸尾知子)

入り口でした。今も小さな地蔵堂があります。昔々クロというタヌキがいて村人にかわいがられていました。周辺で戦が起きたとき、クロは村人たちの日頃の恩に報いるため、金色の山車に化けて戦を止めましたが、力を使い果たして死にました。村人たちはこの地蔵堂に亡骸を葬った、という話が伝わっています。

(奈良まほろばソムリエの会会員 戸尾知子)